

佐賀県研究成果情報（2021年2月）

[情報名] 施設栽培モモにおけるウメシロカイガラムシの発生活長

[要約] 施設栽培モモにおけるウメシロカイガラムシの歩行幼虫は、3～10月にかけて無加温で3回、加温で4回発生する。

[キーワード] 施設栽培モモ、ウメシロカイガラムシ、発生活長

[担当] 果樹試験場・病害虫研究担当

[連絡先] 0952-73-2275・kajushiken@pref.saga.lg.jp

[分類] 技術者参考

[部会名] 果樹

[専門] 果樹虫害

[背景・ねらい]

カイガラムシ類を効果的に防除するためには、ふ化直後の歩行・分散している幼虫を対象に薬剤散布を行う必要がある。そこで、施設栽培のモモにおけるウメシロカイガラムシの発生活長を調査し、防除対策の資料とする。

[成果の内容]

- 1．無加温（3月中旬被覆）における歩行幼虫の発生ピークは、4月上旬頃、6月中旬頃、8月上中旬頃である（図1）。
- 2．無加温（3月下旬被覆）における歩行幼虫の発生ピークは、4月中下旬頃、6月下旬頃、8月下旬頃である（図1）。
- 3．加温（2月中旬加温開始）における歩行幼虫の発生ピークは、3月下旬頃、6月上旬頃、7月下旬～8月上旬頃、9月下旬頃である（図2）。
- 4．加温（2月上旬加温開始）における歩行幼虫の発生ピークは、3月中旬頃、5月下旬～6月上旬頃、7月下旬頃である（図2）。

[成果の活用面・留意点]

- 1．本結果は、2016年から2020年に佐賀県果樹試験場内圃場で調査を行った結果である（表2）。温度管理は現地慣行に準じており、加温開始から20日頃（開花前）までは最低8～10℃、加温開始30～60日後（開花始から満開25日後）頃までは最低12℃で管理されている。なお、加温期間中の施設内日平均気温は、無加温の場合と比較して約6度高く推移した。
- 2．歩行幼虫の発生活長は、成虫の寄生が確認された枝（10枝）に両面テープ（テープ幅15mm ニチバン製）を巻き付け、2～7日ごとにテープを交換し、テープ上に捕獲された歩行幼虫を計数した。
- 3．カイガラムシ類の密度を抑えるために第1世代からの防除が重要であるが、外気温や加温の早晚により発生時期が前後すると考えられる。そのため、本結果のふ化幼虫発生時期を目安に、両面テープトラップによりふ化幼虫の発生状況を確認し、防除を行う。

[具体的なデータ]

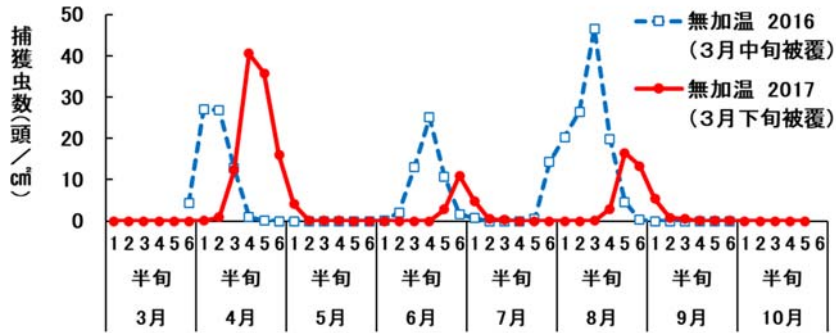


図1 無加温栽培モモにおけるウメシロカイガラムシ歩行幼虫の捕獲消長 (2016~2017年)
 注) 2016年 被覆期間: 3月15日~7月15日、2017年 被覆期間: 3月24日~8月3日

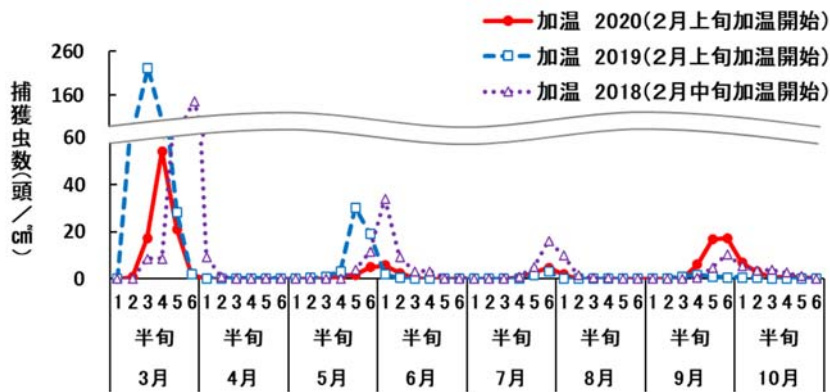


図2 加温栽培モモにおけるウメシロカイガラムシ歩行幼虫の捕獲消長 (2018~2020年)
 注) 2018年 被覆期間: 2月13日~6月下旬、加温期間: 2月19日~4月27日
 2019年 被覆期間: 1月30日~6月19日、加温期間: 2月3日~4月28日
 2020年 被覆期間: 2月6日~8月7日、加温期間: 2月8日~5月21日

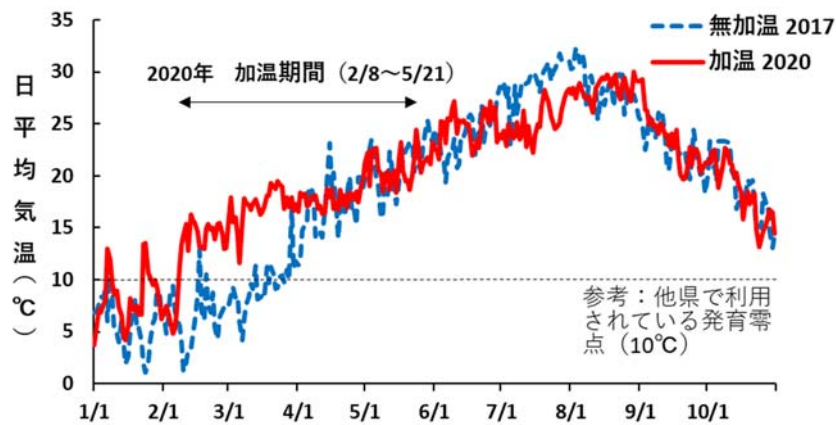


図3 モモ栽培施設内の日平均気温の推移 (2017,2020)

[その他]

研究課題名: 果樹における難防除および新奇病害虫の迅速な防除技術の確立

予算区分: 県単

研究期間: 2016~2020年

研究担当者: 池田亜紀・白石祥子 (現農業技術防除センター)・衛藤友紀・近藤知弥